

「地方の国際協力 NGO の能力強化と活性化」について考えました

『国際協力活動における地方の NGO の能力強化』を検討するにあたり、国際協力分野に限らず、多くの NGO、自治体、有識者の方々にご協力いただきました。
具体的には、

- ① **アンケート**：1000 団体に依頼し、369 団体から回答
- ② **グループインタビュー**：全国 4 か所で実施し、合計 15 団体から情報収集
- ③ **個別の訪問調査**：対象 2 団体から追加情報収集
- ④ **シンポジウム**：全国 2 か所で、それぞれ 4 名のパネリストを招いて開催

を実施しました。

その中で、地方を拠点とした活動展開には、不利なことばかりではなく、むしろ地方独特の個性や利点もあり、東京では得難い“強み”もあるということがわかりました。地方での NGO 活動に、難しい課題がないわけではありません。ですが、能力強化や活性化を目指す場合には、否定的なところから出発するのではなく、肯定的な立場や視点をとることによってこそ、建設的で積極的な方向性が見出されるのは確かです。そのことは、本研究の最初の結論とすることができます。

大事なことは、「肯定的な視点に立って自分にできることから始めること」と言えます。そのことで、NGO をはじめとする市民参加による国際協力セクター全体が活性化していくのだと考えます。そして、地方の国際協力 NGO の能力強化と活性化に対する方向性として、以下の**3つのテーマ**にたどり着きました。

◆ 地域とつながる国際協力

◆ 団体の組織力強化

◆ 地方発の国際協力をはじめよう

これらを今回の研究会の結論として、とりまとめました。
詳しくは反対側ページをご覧ください。

「地域の国際協力は元気です」

有識者からのコメント：龍谷大学経済学部 西川 芳昭 教授

統計的に見ると、国際協力 NGO は首都圏に集中し、地方の NGO の活動基盤は弱体であるかのように見える。しかし少数派とされる地方の国際協力 NGO が、国内外においてインパクトのある活動を実施できずにいるかと言えば、決してそんなことはない。各地方のユニークな個性や創意工夫、地場産業や地域社会のありようを基にした活動が、多様な国際協力を形作っている。

日本国内での地域課題に取り組みながら、そこで得られた知見を国際協力に活かす団体もあれば、研修員受入れ等の国際協力を契機として、自分たちの地域課題に新たな視点で取り組む例もある。国際協力とは、日本から開発途上地域への一方的な支援の提供ではなく、実は相互に学び合い、支えあう極めて双方向的な活動である。

今後ますます、多様なアクターの関与による国際協力が実施されることが期待される。その中でも特に、地方で国際協力を実施している NGO の元気な活動と、これから国際協力を実施したいという地域住民の方々の思いが形になるよう、応援したいと考えている。

《平成 25 年度外務省 NGO 研究会》
テーマ ～国際協力活動における地方の NGO の能力強化～

発行
外務省 国際協力局 民間援助連携室
〒100-8919 東京都千代田区霞が関 2-2-1
TEL：03-5501-8361 FAX：03-5501-8360
<http://www.mofa.go.jp>

実施（運営事務局）
公益社団法人 青年海外協力協会（JOCA：ジョカ）
〒102-0082
東京都千代田区一番町 23 番地 3 日本生命一番町ビル 5 階
Tel.：03-6261-0261 FAX：03-6261-0249
URL：<http://www.joca.or.jp>

Think **Locally**, Act **Globally**
Think **Globally**, Act **Locally**



外務省主催 「NGO 研究会」
～国際協力活動における地方の NGO の能力強化～



地域とつながる国際協力

国際協力活動を展開している NGO は、その大半が東京圏に主拠点を置いています。

一方、地方を主拠点としながら、それを「強み」として国際協力活動を実施している団体もあります。それらの団体に、広く、共通して見られたのは海外での活動が、日本の地域づくりに活かされるという視点でした。

NGO による海外での活動は、日本にいる一般の方々には見えにくいのが現状です。

しかし、海外での活動で得られた様々な経験やノウハウを日本の地域づくりに活かすということは、日本国内の地域課題を、海外で培われた新たな視点を交えて見つめ直すことにもつながり、そのこと自体に大きな意義があると言えるでしょう。また、国際協力を日本の地域社会にとって身近なものにしながら、地域の国際化、多文化共生社会の構築にも大きく貢献することが、期待されます。

一方 NGO の立場からは、団体を支える地域社会とのつながりを深めることによって、日本国内での存在感が増すとともに、地域にしっかりと根付き、支持層の裾野を広げることにもつながります。結果的に、日本の地域社会と国際協力 NGO の双方にとって有益な関係、つまり『Win-Win』な関係を築くことができると言えるのです。

アクション・プラン

ACTION PLAN

それぞれの団体として取り組みやすいものから始めてみましょう

■

海外での国際協力活動で培ったノウハウを日本の地域づくりに活かしていく

■

海外での経験をもとに日本の地域課題を見直してみる

■

日本で経験しているのと似た地域課題について、外国における対処法を地域で伝えていく

■

開発途上国などの外国人に映る日本社会・地域課題を地域で伝えていく

■

同類・類似テーマについて、海外活動団体と国内活動団体で知識や経験の共有を図っていく

■

日本での日常生活が、常に海外とつながっているという理解を地域で共有していく

団体の組織力強化

「国際協力活動における地方の NGO の能力強化」を考える上で、団体の組織力をどう強化するかは地方に限らず国際協力 NGO の多くが重要な課題のひとつとして認識していることが明らかになりました。NGO の多くは、団体創設者など特定個人の能力に強く依存した運営をしているようです。しかし、理念に基づいた活動を実践しつつ、専門性の向上、継続性の維持、説明責任・透明性の確保、規模拡大への対応等を進めるためには、事務局機能（管理部門）の強化は避けて通れないことは明らかです。

事務局機能の強化を実現するのは、容易なことではありません。資金と人材の確保が必要ですし、組織運営のための十分なノウハウも求められます。必要性を認識しながら、なかなか具体的な行動につながらない理由もここに 있습니다。しかし、積極的に組織力強化に取り組んできた団体の経験には、他の団体が学び、実践を可能にするためのヒントがたくさん含まれています。長期的なビジョンを持ちつつも、まずは小さな一歩から始めることが大切です。

アクション・プラン

ACTION PLAN

それぞれの団体で優先順位の高いものをまずは実践してみよう

■

意思決定のプロセスを透明化する

■

役割分担して責任の所在を明確にする
(ひとりで全てを抱え込まず、部門責任者や担当者を置き彼らに任せてみる)

■

中長期的な計画をもって人材を育成する（日常業務をこなすだけでは人材は育たない）

■

職員・インターン・ボランティア等の立場にかかわらず、それぞれの担当業務が団体理念の実現に結びついていることを常に確認・共有していく

■

全てを組織内部で解決しようとせず、必要に応じて外部のリソースを活用する
(専門家、プロボノ、外務省・JICA 制度等)

■

組織化を推進するためのノウハウを外部リソースに求める
(専門家、プロボノ、外務省・JICA 制度等)

■

民間企業の組織運営ノウハウやツールを積極的に活用する

地方発の国際協力をはじめよう

国際協力というと、課題・分野に対する専門性や高い語学力等、特別な技術や能力が必要という印象を持たれることもあります。が、実際のところ、開発途上地域の抱える課題と日本国内の地域課題には共通点も多いのです。

例えば「保健・医療、福祉」、「環境保全」および「子どもの健全育成」等は、国際協力 NGO と日本国内で活動する NGO の主要活動分野として共通しています。

また、グローバル化の進展する中で、日本での日常生活や社会の在り方が、開発途上地域の問題の遠因になっていることも少なくありません。

そう考えると、国際協力活動と、日本国内の地域課題に取り組む活動には、本質的に大きな差がないと考えられます。つまり、国内の地域課題に取り組んできた多くの NGO は、そこで培った知識や経験を国際協力活動に活用する潜在的なスキルを持っていると言えるのです。

国際協力活動に関心を持ちながらも未だ経験のない NGO にとっては、この分野に参入するために必要となる現地情報の入手、パートナーの確保、安全面への不安などから、その敷居が高く感じられることも否定できません。

しかしながら、既存の団体の能力強化に加え、地域に根差した新たな国際協力の振興もまた、国際協力 NGO セクターの強化と活性化には非常に重要であることも、ぜひ忘れないでいただきたいと願います。

アクション・プラン

ACTION PLAN

各団体の一歩が NGO セクター全体の底上げにつながる!

■

日本の地域社会が常に海外とつながっていることを日本国内で啓発する

■

日本人が当事者意識を持って開発途上地域の課題に目を向けられるように啓発する

■

国際協力 NGO と国内の地域課題に取り組む NGO の双方が、互いの活動に目を向け交流を深める努力をする

■

国際協力 NGO は、国内活動を実施している団体からのノウハウ獲得や連携強化を積極的に図る

■

国際協力 NGO は、日本国内で地域づくりに貢献している手法の海外での活用について可能性を探る

■

国内の地域課題に取り組む NGO のうち、国際協力に関心を持つ団体には、積極的に海外活動のノウハウを伝える

■

日本の地域社会の課題解決が、同時に国際協力につながるような Win-Win の可能性を探る